

日本動物遺伝育種学会・在来家畜研究会合同シンポジウム

今年度のシンポジウムは、「量的遺伝学の理論と実践」がテーマです。様々な生物種の量的形質を研究されている5人の講師に話題提供していただき、総合討論を行います。多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日 時： 令和6年9月19日（木）13：00～16：00
会 場： 京都大学農学部総合館 W406 講義室（第Ⅶ会場）
参加費： 無 料

シンポジウムテーマ：「量的遺伝学の理論と実践」

プログラム

13：00～13：05 開会あいさつ 小野木 章雄 先生（龍谷大学）

前半座長：小野木 章雄 先生（龍谷大学）

13：05～13：30 荒川 愛作 先生（農研機構）

【アグー集団の繁殖性の現状と改良の可能性】

（概要）沖縄アグー豚（以下、アグー）は、沖縄県で飼育されている豚であり、沖縄県内で700頭弱が飼養されている。商用の西洋系品種と比較すると、アグーの成長性や繁殖性は劣るものの、優れた肉質を持つことが知られ、現在、アグーは銘柄豚の一つとなっている。アグーの安定的かつ持続的な生産を続けるためには、繁殖性の向上が喫緊の課題である。ここでは、アグーの特徴と繁殖性の育種改良について紹介する。

13：30～13：55 後藤 達彦 先生（帯広畜産大学）

【鶏卵成分の調節に関与する遺伝子座の探索】

（概要）チャボおよびトサジドリ家系の分離世代320個体を対象にした鶏卵成分の量的形質遺伝子座解析によって、卵黄メチオニンおよび卵黄タウリン含量に関与する遺伝子座を第2および第6染色体上にそれぞれ検出した。多様な日本鶏品種をモデルとした、遺伝子座マッピング研究の展望を紹介したい。

13：55～14：20 細谷 将 先生（東京大学）

【魚介類の育種と量的遺伝学】

（概要）天然信仰が強かった日本において養殖魚はつい最近まで雑魚扱いされていた。しかし、選抜育種されたサーモンがこの状況を打破し、養殖魚がついに市民権を得た。その結果、国内の養殖業ブームが到来し、選抜育種への注目も大きくなっている。本発表では、そんな魚介類の育種研究や量的遺伝学の応用について紹介する。

14：20～14：30 休 憩

後半座長：横井 伯英 先生（京都大学）

14：30～14：55 西尾 元秀 先生（農研機構）

【黒毛和種におけるゲノム情報に基づく近交度の利用】

（概要）これまでにゲノム情報に基づく近交度の算出法が多数提案されている。今回はこれらの算出法について解説するとともに、家畜改良センターで繋養されている黒毛和種2,583頭を対象に算出した近交度の結果について紹介したい。

14：55～15：20 小野木 章雄 先生（龍谷大学）

【作物育種における予測の科学】

（概要）作物育種では同じ遺伝子型の個体が多数得られることが多い。そのため従来は、それらを栽培し表現型によって選抜することが中心で、家畜育種のような「予測して選抜する」過程がほぼ無かった。しかしゲノミック選抜の進展とともに、予測に基づく選抜が試されるようになってきた。ここでは昨今の作物育種におけるこの一種のパラダイムシフトを概説する。

15：20～16：00 総合討論

座長：小野木 章雄 先生（龍谷大学）、横井 伯英 先生（京都大学）

引き続き、在来家畜研究会総会を下記のように開催いたします。
研究会会員はご出席ください。

在来家畜研究会総会

日 時：令和6年9月19日（木）16：10～17：00

会 場：京都大学農学部総合館 W406 講義室（第VII会場）

問合せ先：在来家畜研究会 庶務幹事

下桐 猛（鹿児島大学共同獣医学部）

TEL：099-285-8588

E-mail：simogiri[at]agri.kagoshima-u.ac.jp

（[at]を@に変換してください。）